

平成30年度 自己評価表

中長期目標	<p>多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する</p> <p>(1) 実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。</p> <p>(2) 新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。</p> <p>(3) 学校外での学びもとおして人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。</p> <p>(4) 生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	今年度の重点目標	<p>教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 専門力を高める教育の推進</p> <p>(2) 新たな学び方の創造</p> <p>(3) 社会に開く学びの推進</p> <p>(4) 規範意識を育て安全・安心な学校をつくる</p>
-------	---	----------	---

年度当初				達成度参考基準 学校評価アンケート(生徒・保護者)等		中間評価結果			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標	目標達成のための方策		経過・達成状況		評価	改善方策
(1) 専門力を高める教育の推進	○基礎学力向上を基盤とした専門教育の充実	家庭学習がほぼ毎日できているという生徒の割合は昨年度 25.8%で一昨年度より 1.8% 減少。基礎力診断テスト D ゾーンは H29 冬休み明け 60.4%と一昨年より 6%増加。資格取得について昨年度後半生徒達の前向きな取組が見られ、取得資格検定数は H29 末 1.34 件であった。	○基礎学力の向上を基盤に、専門領域の基礎基本を身につけさせる教育を推進する。 ○基礎基本を応用した技術や高度な内容に関する調査・研究などに挑戦する。 ○学びの成果を活かし、資格・検定取得に積極的に取り組む。 ○農業学科では農業生産工程管理 (GAP) や食品衛生管理 (HACCP) の平成 31 年度認証を目指す	今年度より漢字検定については 1・2 年生全員受験を行うことなどで、基礎学力の向上・資格取得の奨励・学習習慣の定着を図る。 2 年次以降の課題研究の内容充実に向けて、1 年次から専門科での学習内容の充実を図る。 専門人材育成事業の取組として、取得資格の目標を明確にする。より難易度の高い資格についても 50% 以上の資格取得を目指す。 シラバスの中に目標資格を明記し指導の徹底を図る。	○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 (H28 年度末 27.6% H29 25.8%) A 35%以上 B 30%以上 C 25%以上 D 20%以上 E 20%未満 ○基礎力診断テストの結果が D ゾーンに該当する生徒数の割合 (H28 年度末 54.4% H29 冬休み明け 60.4%) A45%未満 B50%未満 C55%未満 D60%未満 E65%未満 ○生徒一人当たりの取得資格・検定数 (H26 年度末 1.8 件 H27 年度末 1.46 件 H28 年度末 1.29 件 H29 年度末 1.34 件) A1.7 件以上 B1.5 件以上 C1.2 件以上 D1.0 件以上 E1.0 件未満	○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 H30 前期 26.6% ○7 月基礎力診断テスト D ゾーンに該当する生徒は、1 年 58%2 年 61.2%3 年 74%と学年が上がるにつれて増加している。(全校 64.3%) 今年度より目標資格をシラバスに明記し取り組んでいる。また、2 年全員と 3 年希望者が漢字検定を受験し、2 級 3 名、準 2 級 8 名、3 級 47 名、4 級 11 名が合格。(合格率 36.5%) 1 年生は 11 月受験予定福神漬け製造の HACCP 認証に向けた取組が進んでいる。	C	引き続き、専門人材育成事業の取組の充実を図る。 資格取得推進 WG で、目標とする資格を難易度別に整理するなど資格取得の推進について検討し、継続的に指導を行う。 基礎学力向上 WG で組織的な取組を検討し、引き続き基礎学力の向上を図る。	
	○キャリア教育の充実	進学希望者へ課外の学習セミナーの実施及び各科指導による課題作文指導を実施している。 就職希望者には早めに進路を決めて面接指導の充実を図っている。昨年度就職内定率 100%	○キャリア教育の充実の観点から、インターンシップやスーパー農林水産業士などの取り組みを積極的に活用し、生徒のキャリアの充実を図る。	就職・進学希望者とも面接指導の充実を図る。1 年次上級学校見学、2 年次インターンシップを実施し、各学科・進路指導部を中心とした 3 年間を見通した組織的な取組を継続実施していく。 進学希望者への校外模試受験を呼びかける。 進路指導と併せて、部活動を 3 年間継続する大切さを生徒・保護者に機会をとらえて訴えていく。	○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 (H28 年度末 80.6% H29 年度末 74%) A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%以上 E 70%未満 ○自分は部活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合 (H28 年度末 73.5% H29 年度末 66.5%) A85%以上 B80%以上 C 75%以上 D70%以上 E70%未満	○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 H30 前期 78%と、H29 より 4%増。 ○自分は部活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合 H30 前期 67.3%と変化なし。 スーパー農林水産業士 2 名を申請中。	B	1 年次上級学校見学を 10・11 月に、2 年次インターンシップを 10 月 30 日より 4 日間実施する。 各学科・進路指導部を中心とし、3 年間を見通した組織的な取組と面接指導を継続する。 10 月以降実施の学年別保護者会で、部活動を 3 年間継続する大切さを訴える。	
(2) 新たな学び方の創造	○協同学習の理念を基盤としたアクティブな学び方の推進	各自 1 回以上の公開授業は、34 回行われた。H29. 10 月に協同学習授業研究会、H30. 1 月に iPad 活用授業研究会を実施した。 安永悟先生に協同学習について、益川弘如先生に iPad を活用したアクティブラーニングについて指導いただいている。	○協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を積極的に実践する。 ○専門教科と普通教科の連携等の工夫を行い、学力の向上を目指す。 ○生徒に、仲間とともに「学ぶ喜び」「学ぶ責任」があることの意識を高める。	今年度も公開授業各自 1 回を継続実施する。 協同学習授業研究会・iPad 活用授業研究会は継続実施して行きたい。 iPad・デジタル教科書を利用した協同学習の推進を図ることでより分かりやすい授業を目指す。	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 (H28 年度末 73.2% H29 67.8%) A80%以上 B75%以上 C70%以上 D65%以上 E65%未満	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 H30 前期 70.7% 今年度よりデジタル教科書を国語・数学・家庭・保健体育で活用している。 専門教科と普通教科の連携として、「生物基礎」と「食品製造」の授業において、浸透圧の基礎と応用について連携して学習した。	C	公開授業各自 1 回を継続実施する。 協同学習授業研究会を 10 月 23 日、キズバート教員による授業を 11 月 16 日、iPad 活用授業研究会を 1 月 28 日に実施し、協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を深める。	
	○ICT 活用の推進	昨年度授業における共用 iPad の使用頻度は週 25/29 時間で使用されている。 情報科学科では学習支援ソフトを利用し、課題テストやアンケート・保護者連絡等に利用されている。	○ICT の活用を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。	校内研修を増やすなどして、iPad・デジタル教科書を使った教科指導法を引き続き研究する。 情報科学科における学習支援ソフト Classi のさらなる有効活用について研究を行う。	○iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 (H28 年度末 63.4% H29 情報科学科以外 56.2% 情報科学科 82% 全校 66.2%) A85%以上 B75%以上 C70%以上 D65%以上 E65%未満	○iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 H30 前期 63.6% 共用 iPad の使用頻度は週 26.1/29 時間 (H29 週 25 時間)、iPad を活用した授業を実施した教員は 48 名中 33 名。(H29 32 名) 情報科学科では資格取得や学習プログラム・デザイン作品作成の振り返りなどに、Classi ポートフォリオ機能の活用を始めている。	B	学びの集団づくり WG において、より効果的な ICT 活用の方策や校内研修などを検討する。 iPad 活用授業研究会を 1 月 28 日に実施し、iPad・デジタル教科書を使った教科指導法を引き続き研究する。	
(3) 社会に開く学びの推進	○地域・産業界との連携推進	社会人講師授業・校外実習が日常的に実施され、課題研究では地域産業と連携している。 湖陵フェスタは終日雨に見舞われたが、多くの方に来場いただいた。保護者・PTA の OB とも連携して湖陵フェスタの成功にむけ活発に活動できている。	○地域や産業界との連携を進め、学校での学びを社会で生かす能力の基礎を育てる。 ○地域に本校の教育資源を提供し、産業界や地域の教育力を本校に導入し、生徒の専門性を高める。	社会人講師授業・校外実習・課題研究などの充実を図る。 湖陵フェスタは実施時期を幾分早め、中学生の来場を増やすことや天候が安定する時期に実施する。各学科の展示のさらなる充実を図る。	○湖陵フェスタ来場者アンケートで湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合で判断する。(H28 年度末 83% H29 年度 70%) A80%以上 B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満	社会人講師授業・校外実習・わたいたい販売実習などで学校での学びを社会で生かすことができた。 湖陵フェスタに向けて、総合技術係を中心に組織的に取り組んでいる。 中学校出前授業を新たに東中で、専門高校 4 校連携ふるさと手づくり祭りを 7 月 14 日に実施した。	B	湖陵フェスタは中学生の来場を増やすことや天候の安定を考慮して、11 月 10 日に実施する。各学科展示のさらなる充実を図る。 専門高校の理解を深めるため、新たな出前授業を 11 月 30 日江山中学校で実施する。	
	○共生の心・自他を尊重する気持ちの育成	生徒と職員がともにつくる人権教育 LHR を推進している。 情報科学科では iPad を活用した特別支援学校との交流が 4 年目となっている。	○異世代や障がいのある方との交流体験を通し、人権を尊重し、友に育つ共育を推進し、共生の心や自他を尊重する気持ち(ともに学び、ともに生きる)を育む。	生徒と職員がともに取組む人権教育 LHR を推進する。 いじめに関するアンケート結果について適切な対応を行う。 iPad を活用した特別支援学校・小学校との交流を通して、コミュニケーション能力を高め人権意識の向上を図る	○人権や命を大切に育てる教育がおこなわれていると答えた生徒の割合 (H28 年度末 86.4% H29 75.4%) A90%以上 B85%以上 C80%以上 D75%以上 E75%未満	○人権や命を大切に育てる教育がおこなわれていると答えた生徒の割合 H30 前期 71.9% 生徒と職員がともに取組む人権教育 LHR を推進中。 情報科学科では iPad を活用した特別支援学校との交流を 2 回実施した。	B	引き続き、生徒と職員がともに取組む人権教育 LHR を推進。いじめに関するアンケート結果について適切な対応を行う。 iPad を活用した小学校との交流を実施し、ともに学び、共生する心を育む。	
(4) 安全安心な学校づくり	○規範意識の確立・生徒の心情理解	昨年度 2 学期より長い髪の女子生徒には常時くる、化粧は落とすという指導の徹底を図っている。 配慮を必要とする生徒について丁寧な情報交換を行いながら対応している。	○高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開くことができる意欲と素直さを身につけさせる。 ○生徒の心情を十分に理解し、特別な支援が必要な生徒などにも十分に配慮を行う。	服装検査事後指導を可能な限り翌日に行い服装や身だしなみの整備の徹底を図る。職員間でのプレの無い指導を行う。指導を繰り返す生徒には、保護者連絡を徹底し速やかな改善に努める。 QU アンケート結果などを踏まえながら HR 担任、保健室、SSW との連携を深め、生徒の小さな変化を見逃さないようにする。	○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒の割合 (H28 年度末 91.8% H29 年度末 91.9%) A95%以上 B90%以上 C85%以上 D80%以上 E80%未満	○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒の割合 H30 前期 93% ○服装身だしなみをきちんと指導していると答えた教職員は H29 前期 37.2%→H30 前期 69.6%である。	C	引き続き、教職員全員プレの無い指導を行い、指導を繰り返す生徒には保護者連絡を密にし速やかな改善に努める。 QU アンケート結果を踏まえた研修会を 11 月に実施し、HR 担任、保健室、SSW との連携を深め、生徒の小さな変化を見逃さないようにする。	
	○保護者・地域との連携推進	ホームページの更新を迅速に行うことができている。「まち comi」による広報も積極的に行われている。	○教職員が方向をひとつにし、保護者や地域と連携しながら明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。	ホームページの更新を各分掌・学年・部活動で温度差なく迅速に行うよう取り組むことにより、地域や家庭への広報を積極的に行う。「まち comi」についても有効に活用していく。	○ホームページ等を活用して積極的に情報発信していると答えた保護者の割合 (H28 年度末 74.2% H29 76.6%) A75%以上 B70%以上 C65%以上 D60%以上 E60%未満	保護者より「配布プリントが家庭に届かない」という意見が少なくない。 部活動紹介のホームページを数年ぶりにすべて更新し、中学生・地域へ積極的に広報できた。 1 学期は臨時休校など突発的な対応を迫られたが、HP とまち comi を通じて確実に対応できた。	C	地域・家庭に学校の方針をご理解いただくため、配布プリントの確実な持ち帰り、ホームページの迅速な更新、PTA 行事の充実などに引き続き取り組む。	